

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 13 週 2026 年 3 月 23 日 ~ 3 月 29 日

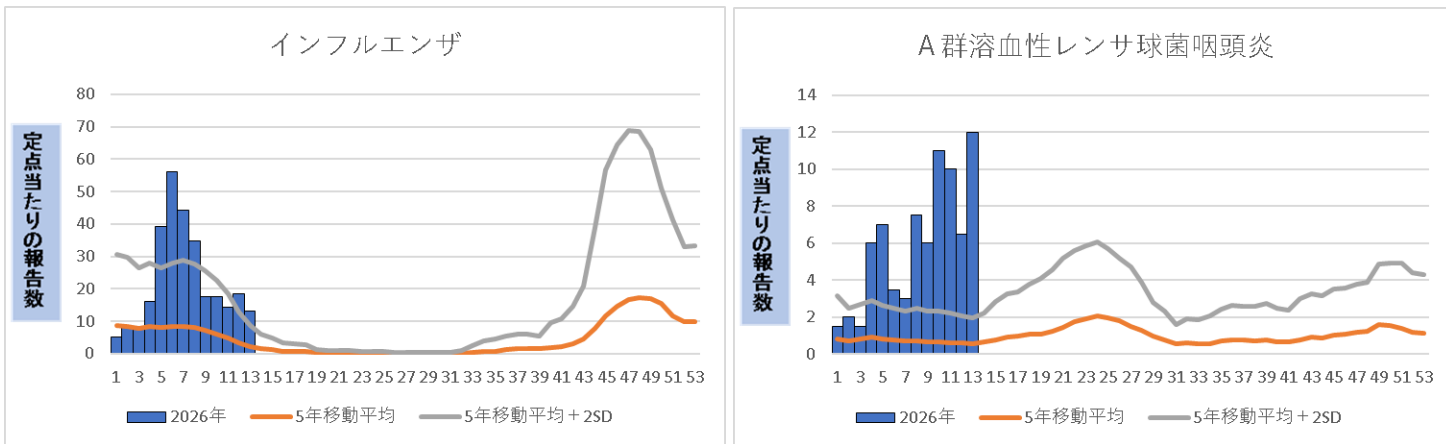
今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎が警報レベル継続中です。
京都府内では、インフルエンザが警報レベルが解除されました。

2026 年第 13 週の報告です。

- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 13.25(前週 18.5)、京都府 7.00(前週 10.89)となっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 12.00(前週 6.50)、京都府 4.16(前週 3.50)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 8.00(前週 3.50)、京都府 4.32(前週 4.26)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。
- 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

**南丹保健所管内の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が警報レベルが継続しています！
手洗いや咳エチケット、傷口の清潔な処置といった基本的な感染防止対策を心がけましょう。**

南丹保健所管内における A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は 12.00 となり、前週(6.50)から増加しました。また、京都府全体の報告数は 4.16(前週 3.50)でした。南丹保健所管内は府内で最も多い報告数となっています。

【A 群溶血性レンサ球菌とは】

A 群レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は、主に飛沫感染と接触感染があります。

冬と春から初夏にかけて2つのピークがあり、家庭や学校での集団感染が多い感染症です、

【症状】

38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌等があります。熱は 3 日から 5 日以内に下がり、1 週間以内に症状は改善します。

まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱(しょうこうねつ)」に移行することがあります。

【予防方法について】

有効なワクチンはありません。そのため、手洗いや咳エチケット、傷口の清潔な処置といった基本的な感染防止対策を心がけましょう

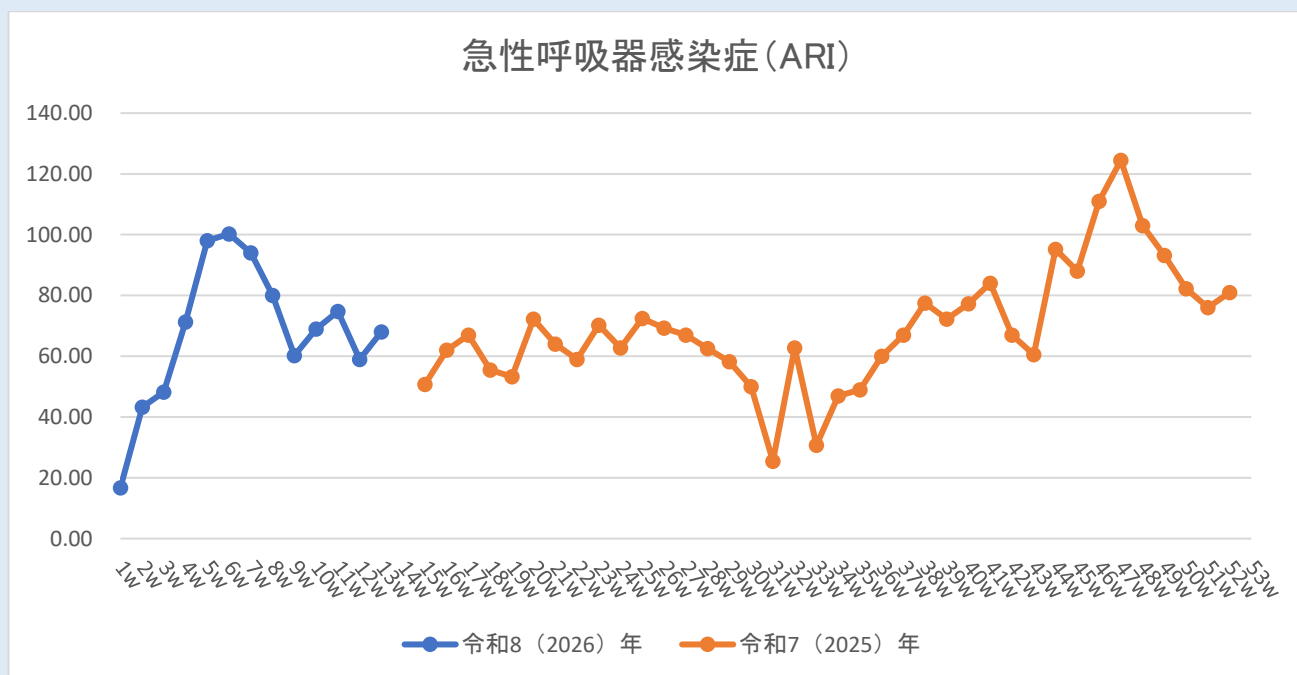
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.13w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	13.25	↘	18.50
新型コロナウイルス感染症				0.50	↗	0.25
RSウイルス感染症				0.00	↘	1.50
咽頭結膜熱	3	1		0.00	↘	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		12.00	↗	6.50
感染性胃腸炎	20	12		8.00	↗	3.50
水痘	2	1	1	0.50	→	0.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	↘	1.50
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第13週報告数は272件(定点当たりの報告数68.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則)毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)